



Q

東京都で救急搬送された事故で多いのは、乳幼児の「おぼれ」事故です。
どんな事故状況ですか？ そして事故防止対策は？



A

【事例1】

自宅で男児が父親と入浴していた際、父親が洗髪のため目を離した隙に、男児が浴槽内で溺水し、母親が救急要請した。(11ヵ月 男児 重症)

【事例2】

母親が浴室で男児の首に浮き輪をつけて浴槽にいれていた。母親が30秒程目を離したところ、男児の頭が浮き輪から抜け、浴槽内に沈んでいた。(6ヵ月 男児 重症)

【事例3】

母親が上の子を見るために下の子を浴槽内に浅く湯を張り立たせておいた。母親が目を離している隙に下の子が浴槽内に水没していて、呼びかけても反応がなかった。(11ヵ月 女児 中等症)

【事例4】

3歳と1歳の子供を浴槽に座位で入れていた。(水位約30cm) 母親はすぐに入ろうと準備していたが、用事を思い出し、浴室を離れていた。子供の泣き声がしたので浴室にいてみると、水かさが10cm~20cm増えた状態で、1歳の子供がうつぶせで水没しているのを発見した。(1歳 男児 中等症)

●乳幼児のおぼれを防ぐ事故防止ポイント

洗髪や兄弟の世話をしている間等、ほんのわずかな時間に事故が多く発生していることを知っておきましょう。従って、あたりまえのことですが、乳幼児をお風呂に入れている時、水遊びをさせている時は、決して目を離さないようにしましょう。



Q

その他の乳幼児で多い事故例とその防止対策は？



A

■乳幼児の「落ちる事故」

【事例1 ベッドから落ちる】

ホテルの授乳室でベッドに寝かせていたところ、寝返りを打った際に約1mの高さから床に転落した。(6か月 女児 中等症)

【事例2 階段から落ちる】

女児が自宅2階の居室内で寝ていたため母親が2階の風呂へ入った。母親が入浴している最中に「ドン、ドン」と物音がし、女児の泣き声があったため慌てて風呂から出たところ、階段から転落した女児を発見した。2階から1階まで転落し、頭部を受傷していた。(7か月 女児 中等症)

【事故防止ポイント】

ベッドやソファ、階段等から落ちる事故は、0歳児に多く発生しています。昨日まで出来なかった寝返りが、今日出来るかもしれません。目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。また、高い所に寝かせないようにしましょう。階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

■乳幼児の「飲み込む事故」

【事例 ものがつまる、ものが入る、誤って飲み込む】

男児の口にタバコが入っているところを母親が発見したもの。取り除いたものの嘔吐をしたため母親が救急要請した。(9か月 男児 中等症)

【事故防止ポイント】

子供が飲み込めそうなものが子供の手の届くところにはないか、日頃から整理整頓をこころがけましょう。

・早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。乳幼児は、トイレットペーパーの芯(39mm)を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。

**■乳幼児の「はさむ事故」****【事例 はさむ・はさまれる】**

女兒の母親がドアの蝶番側に子供の指が入っていたのに気づかずにドアを閉めたところ、左手の中指が挟まれて切断した。(1歳 女兒 中等症)

【事故防止ポイント】

子供の「はさまれ」の原因で一番多いのは「手動ドア」です。子供の手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。指の切断に至ることもあるのでドアの開閉時は、注意しましょう。

ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーしましょう。

■乳幼児の「やけど事故」**【事例 やけど】**

自宅でテーブルの上に置いてある味噌汁のお椀が乗ったお盆を、男児が引っ張って味噌汁をこぼし、背中、右脇腹をやけどした。(1歳 男児 重症)

【事故防止ポイント】

やけどの恐れのあるものは、子供の手の届くところに置かない。

テーブル上に置かれた熱いものが入った容器を乳幼児が引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。テーブルの隅など、乳幼児の手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。

■乳幼児の「切る、ささる事故」**【事例 切る・刺さる】**

自宅で歯みがきをしながら走っていたところ転倒し、口腔深部に歯ブラシが刺さり出血したため、母親が救急要請した。(2歳 女兒 中等症)

【事故防止ポイント】

歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきさせないようにしましょう。

歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多くあるため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。



東京都で救急搬送された事故で多いのは、高齢者の「ころぶ」はどんな事故状況ですか？ その防止対策は？

**【事例 1】**

自宅において、ベッドからトイレへ移動しようとしたところ、転倒して左大腿部を受傷した。(85歳 女性 重症)

【事例 2】

自宅で掃除中、掃除機のホースにつまづき転倒し受傷した。(78歳 女性 重症)

【事例 3】

横断歩道で手押し車を押しながら歩行中に、車道と歩道の段差を上りきれず後方に転倒し受傷。目撃者により救急要請となった。(72歳 女性 中等症)

【事例 4】

自宅居室内で布団が足に絡み転倒、足部を受傷し歩行困難となったもの。様子をみるも症状の改善がみられないため救急要請した。(66歳 男性 重症)

【事例 5】

自宅居室において、来客を出迎えるため玄関に向かおうとした際、敷居の段差につまづいて転倒し受傷した。(90歳 女性 中等症)

●ころぶ事故を防ぐために(転倒防止)

- ・段差をなくしましょう。
- ・段差(段の先端部)に目印となるテープを貼って分かりやすくしましょう。
- ・足元を十分に明るくしましょう(足元灯・照明器具の設置など)。
- ・滑り止めをしましょう(階段・廊下・玄関先など)。
- ・歩行を補助しましょう(手すりなど)。
- ・継続できる、体力にあった運動をしましょう(散歩など)。
- ・ころぶ原因となるものは取り除きましょう(整理・整頓)。
- ・時間に余裕をもって行動しましょう
- ・夜間や天候の悪い日は、足元に注意しましょう。
- ・浴室など床が濡れている場所は、滑る危険が高いため注意しましょう。